

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成20年7月24日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 高等教育研究開発推進機構

職 名 機 構 長

氏 名 北 村 隆 行

事業区分	平成20年度・シンポジウム等開催助成			
事業内容	国際フォーラム「多極的世界観の構築と外国語教育 - 多様な言語文化への挑戦			
開催期間	平成20年6月20日(金)			
開催場所	京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール			
成果の概要	別紙のとおり。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(プログラム)			
会計報告	事業に要した経費総額	9,114,590 円		
	うち当財団からの助成額	3,800,000 円		
	その他の資金の出所	運営費交付金		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	旅費 外国人招へい渡航費	2,307,030	1,344,350	
	同上宿泊費	140,000		
	人件費 講演謝金(2名)	2,567,550	611,900	
	同上通訳謝金(2名)	286,780	143,420	
	借料費 会場借料	117,600		
	同上通訳機器	470,000	470,000	
	同上音響照明、看板等	178,500		
印刷費 ポスター・パンフレット一式	347,130	230,330		
同上報告書(作成予定)	2,700,000	1,000,000		
合 計	9,114,590	3,800,000		

国際フォーラム「多極的世界観の構築と外国語教育 - 多様な言語文化への挑戦」成果の概要

高等教育研究開発推進機構長 北村隆行

グローバル化の進展に伴い、国際語としての英語の重要性は益々高まりつつある。また、外国語学習を通じた言語の持つ文化的背景を理解することは重要であり、英語以外の外国語学習を通じて多様な文化的背景からなる価値基準を理解することは併せて重要である。そこで、高等教育研究開発推進機構では、学部学生を対象の中心に位置づけ、初修外国語学習の意義を知り、その動機付けとなるよう、多極的世界観の構築に繋がる国際フォーラムを企画し開催した。

本フォーラムを企画するに当たっては、国際社会における多極的世界の構築を提唱する論客として、外相時代に多極的世界の構築を唱え続けたフランス共和国元首相・外務大臣ドミニク・ドヴィルパン氏を招聘し、日本の論壇に多言語主義の視座を導入した中央大学教授にして日本を代表するフランス語通訳の三浦信孝氏、並びに本学人間・環境学研究科教授の佐伯啓思氏を交え、多極的世界観の構築に外国語教育・学習はどのように資するか等についての講演や討論を通じて、本学学生をはじめ、教職員や研究者等との交流を図り、本学の教育・研究の国際化を推進することを目指した。

なお、開催にあたっては、当機構の主催のもと、人間・環境学研究科外国語教育論講座が主体的に関与した。また、本年平成 20 (2008) 年は日仏交流 150 周年にあたることから、在日フランス大使館の協力を仰ぎ、さらに朝日新聞社の協力を得ることができた。

開催当日は梅雨の最中でもあり、あいにくの雨であったが、500 名を超える学生・教職員・研究者・一般市民の参加を得、会場の時計台記念館・百周年記念ホールは満員大盛況となった。尾池総長の開催挨拶を皮切りに、第一部では、ドミニク・ドヴィルパン氏から「多極的世界における多言語主義と文化的多様性の挑戦」と題する基調講演が行われ、「言語の画一化はゆっくりと進行する人類の死なのだ」、「多数言語と少数言語とが文化的な豊かさを交換しあう双方向の道を確認しなければならない」、等のメッセージが述べられた。第二部では、佐伯啓思人間・環境学研究科教授から「混迷の中の世界 - アメリカ極主義から多極的世界へ」、三浦信孝中央大学教授から「日本の国策としての多言語主義」と題する報告が行われた。その後、ドミニク・ドヴィルパン氏を交え、小倉紀蔵人間・環境学研究科准教授の司会により、佐伯、三浦両氏とのシンポジウムを行い、会場からの質問に答える形で討論が進められ、英語以外の外国語を学ぶ意義を再認識し、多極的世界観を構築することの重要性について考える希有な機会を得ることができた。

本事業の第一の目的は、英語だけでなく他の外国語をも学習することの必要性並びに英語圏以外の文化を理解することを通じて、多様な価値基準や異文化理解をも視野に入れた異なる視点の重要性を学生に認識してもらうことであり、第二の目的は、国際社会で活躍する内外の著名人や知識人と本学学生並びに教職員や研究者等が意見を交換することにより、外国語教育及びその研究をさらに発展させることにあった。

本事業の実施により、本学学生、特に学部学生が英語以外の外国語学習を通じて多様なものの見方や考え方を理解することの重要性を深く認識し、多極的世界観の構築及び学習に対する動機づけの強化を図れたこと、さらに外国語教育に関する研究を深化させる上でも多大な意義があったと確信する。

本事業を推進するにあたり、貴財団より多額の助成をいただきましたことに対し、深く感謝するとともに、篤くお礼申し上げます。